

2. 音韻の粗描

発音は「簡略な」音声表記により、a, ε, ɔ の如く裸で記すことにする。音韻的な処理を施した部分もあるが体系を十分に考慮した上のものではない。このような簡略表記であっても、当該方言の概略を知るといふ点に目標を限定するならば有用であると考え。なお、簡略表記の説明のためやや精密な音声表記を用いるが、そのような場合 [a][ε][ɔ] 等で示すことにする。調査にあたって、これはやや精密な表記に関わることであるが、インフォーマントが同一の音であると報告した場合であっても調査者がはっきりと聞き分けることのできた音声は異なる音声記号を用いて表記した。一方、音声環境からみて理論的には異なる音となるはずのものであっても調査者自身が聞き分けることができず、且つインフォーマントも同一の音であると報告した場合は只一つの音声記号を用いて表記した。

[b, m, n...] 等の子音の口蓋化音は [b^j, m^j, n^j...] の如く表記する。なお、第2音節以降の短母音は中舌化するがその聴覚印象は前後の音環境により一様ではない。この中舌化母音の音声表記には確信の持てない部分があるため、第1音節の母音の表記に使用した音声記号を用いて第2音節以降の短母音をも表記することにした。

2-1. 母音

2-1-1. 短母音

第1音節の短母音の簡略表記とやや精密な音声表記は以下の通りである。

男性母音	a	ε	ɔ	o	i
女性母音	ɜ			u	

1. a : [a] [am]口、[dzaɸsar]すきま、[max]肉

2. ε : [ε] [εm]生命、[dzεw]小舟、[nεrεŋ]狭い
 : [e] [bʲelsak]指輪、[mʲeŋk]千、[tʃʲedax]できる
3. ɜ : [ɜ] [ɜm]雌、[xɜl]舌・言葉、[nɜr]名前
4. i : [i] [im]目印（家畜の耳に付ける）、[tʃʲix]耳、
 [ila:]蚊
5. ɔ : [ɔ] [ɔt]星、[nɔm]本、[xɔnʲ]羊
6. o : [o] [os]水、[sos]血、[onʲ]パオの樽木
7. ʉ : [ʉ] [ʉr]負債・種子、[ʉt]羽・正午、
 [tʲʉr]国家・臨時の

男性母音にはaの他にεという母音が認められる。no.7のʉは、ハルハ方言では以下の如く(θ)と(Y)の2種に区別されるわけであるが、バヤラ氏にあっては、蒙古文語の(ö)やハルハ方言の(θ)に相当する音はʉに合流する。なおこれ以後ハルハ方言のキリル文字表記及び蒙古文語形は全てLessing(1995)に拠り、蒙古文語形のローマ字転写およびキリル文字は()で括りそれと明示する。

- (θ)・・・(θp)負債 (θД)羽 (τθp)国家
 (Y)・・・(Yp)種子 (YД)正午 (τYp)臨時の

2-1-2. 長母音

長母音の簡略表記とやや精密な音声表記は以下の通りである。

男性母音	a:	ε:	ɔ:	o:	i:
女性母音	ɜ:		θ:	ʉ:	

1. a: : [a:] [a:w]お父さん、[xa:n]どこ、[otʲa:]煙
2. ε: : [ε:] [ε:l]アイル、[xε:tʃʲ]はさみ、[ewe:]お母さん
3. ɜ: : [ɜ:] [ɜ:rɜx]捜す、[xɜ:l]家畜の胎児、[tʲɜmɜ:]らくだ
4. i: : [i:] [i:m]このような、[ʃi:r]動物のすねの部分、